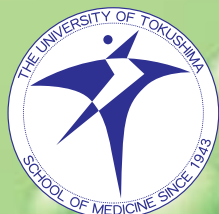


徳島大学



The University of Tokushima
School of Medicine

医学部だより

第4号

2003.10.31

巻頭言

医学部教育と環境改善について

医学部長 曾根三郎

21世紀に入って少子高齢化が急速に進展する時代となり、日本経済の急成長と共に発展してきた大学の存在と意義は経営と教育、研究の面から今後の存亡をかけて問い直されている。

徳島大学医学部は前身の医学専門学校が昭和19年に開校されて以来、60年余りが経過し、4,462名に及ぶ医師を輩出してきた。昭和39年に開校した栄養学科も1,719名の卒業生を送り出し、栄養学研究科博士課程からは約50名の卒業生が生命科学や栄養学分野での教授として日本全国にて指導的な立場で活躍している。平成14年度からスタートした保健学科も医療短期大学部から発展し、近い将来には修士課程、博士課程を備えたアカデミアとしての役割が期待されている。21世紀に入り、バランスの良い効率的な医療の提供には医療の専門化と同時に総合化が社会的な要請であり、そのためのチーム医療が求められている。専門医療人の育成という観点から医学部の役割と責務は益々大きくなっている。

教育環境の改善は講義・実習方法やカリキュラムなどのソフト面と施設、講義室や周辺環境などのハード面からの取り組みが必要とされる。また、学生教育だけでなく、教官の資質や能力を伸ばすための faculty development(FD) の実践、さらに事務・技術職員のための staff development(SD) など重要な課題としてあげられている。

一方、専門医療人の育成には高度先進医学並びに医療を学ぶ場としての教育環境や施設の整備も最優先されるべきである。学生に対する良質な amenity の提供は

先端的な生命科学や医学、医療を学ぶ学生だけでなく、指導にあたる教官にとっても非常に重要な要素である。

教育環境の施設改善計画として、今年の春には栄養学科棟が全面改修され、新しく学際的な環境の中で教育・研究が行われており、若い知力の創生の場となっている。一方、医学科は戦後ベビーブーム(昭和47年卒業生以後)の時代に入学生員が100名となり、当時の基礎講義棟、臨床講義棟も40年近い歳月が経過し、老朽化による建物の疲弊が甚だしいことから、施設マネジメント部と早急な改修実施の計画を練っている。また、保健学科も来年度には4年生へと学年進行し、修士課程の新設も視野にあり、講義・実験室棟の増設が必要なことから対策を進めている。今後とも、医学科、栄養学科、保健学科の講義棟、学生自習室、研究棟の新設並びに改修、課外活動拠点としてのグラウンド、競技施設、部室などの整備、施設周辺のアカデミックな環境の整備を重点的に取り組んでいく予定である。

最近、医学部施設内には200名前後の参加者を対象とした講演会、セミナー、研修会などの開催に適した施設がなく、何らかの対応が必要であるとの要望が寄せられていた。今回、改修予定のない第二臨床講堂、第三臨床講堂を学生講義の使用だけでなく、学生・教職員の情報発信並びに情報交換の場として広くご利用頂けるように快適な椅子にすべて取り替えると共に、演台の設置並びに質の高い音響装置を導入し、利便性と快適性の改善を図った。広くご利用頂きたい。

最後に、徳島大学は大学院大学としての生き残りを決断しており、平成16年度から医学・歯学・薬学・

栄養学の4研究科の統合大学院（部局化）がスタートする予定であることから、蔵本地区全体の教育環境のインフラ整備が緊要の課題としてあがっており、教育・研究を支援する総合事務管理棟、大学院講義棟の新設

などを推進していく計画である。

今後とも、関係各位のご協力とご支援を引き続きお願いしたい。

副学長（総務担当）就任ごあいさつ

副学長 黒田 泰弘



10月1日付けで徳島大学副学長（総務担当）に就任しました。青野敏博学長を補佐して大学と医学部の発展のために力を尽くしますのでご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

さて、徳島大学は、来年4月から国立大学法人徳島大学になります。この法人化に向けて大学の執行部の体制を強化するために、10月から今までの教育担当副学長と学術研究担当副学長に加えて新たに総務担当副学長が設けられました。法人化後は、さらに管理担当副学長と経営担当副学長が加わり、学長と副学長5名とで役員会を組織して大学を運営する予定です。

法人化後、大学は、組織、運営、人事、財務、資産

の面で今までとは大きく変わり、大学の自由度はある程度増しますが、それとともに責任も重くなります。とくに、今までと違って大学の運営に外部の人がかわり、大学が外部から評価されるようになります。

法人化は、民営化とは違い、今までと同じように毎年、運営費交付金と言って国から大学の運営費がもらえます。しかし、大学は、6年毎に教育、研究、経営などの目標・計画を設定して実行し、国は、その6年間の達成度を評価してその評価結果を運営費交付金に反映させます。

すなわち、今まで以上に実績主義になりますので、大学の教職員一人ひとりが今まで以上に努力しなければなりません。それとともに、大学は、教育、研究を行う学問の場であることを忘れてはなりません。

分子酵素学研究センター長就任ごあいさつ

分子酵素学研究センター長 蛭名 洋介



“分子酵素学研究センター”は、42年の歴史をもつ日本でも特徴ある研究センターとして位置づけられています。平成15年度採択されました21世紀COE「多因子疾患克服へのプロテオミクス研究」の採択理由にも「分子酵素学研究センター」「ゲノム

機能研究センター」の存在が取り上げられています。分子酵素学研究センターでは、2002年にプロテオミクスを専門とする部門（谷口寿章教授）を設立しました。

生命の2つの重要な分子である“情報を司るゲノム”と“機能を司る酵素”の研究は共に生命科学の中心的課題で、徳島大学の顕著な特色は、この2つの研究をするための“ゲノム機能研究センター”と“分子酵素学研究センター”が存在することです。他の地方大学にはない、この恵まれた生命科学研基盤の上に立ち、さらに発展させる必要があると考えられます。しかし、来年の国立大学法人化後はセンターも激動の荒波の中に巻き込まれます。その中に消え去ることのないよう、個性輝く徳島大学の伝統を次の世代に受け継ぐため、微力ではありますが尽力いたしたいと存じます。

学科ニュース

*** 医学科長あいさつ ***

生命科学・先端医療拠点群の中での医学科の役割

医学科長 福井 義浩



この度、平成 15 年 10 月 16 日付で中堀 豊教授の後任として医学科長に任命されました。徳島大学は平成 16 年 4 月 1 日より、独立行政法人に移行し、医歯薬栄養学統合大学院も設置されようとしています。又、医学部基礎棟・臨床研究棟の改築計画

もワーキンググループ(苛原 稔グループ長)で進展中です。これまで歴代の医学科長が学部長を補佐し、医学科ひいては医学部の発展のために努力されてきましたが、私も可能な限りがんばりたいと思っています。

曾根三郎医学部長とは数年前に徳島医学会を当番教室として共同で開催し、徳島県医師会役員と学術集会の運営方針について何度も協議を行いました。徳島医学会賞創設もその議論の中から生まれたように思います。その後、私が四国医学雑誌編集委員長、曾根先生が JMI (欧文誌) 編集委員長の時、曾根先生の発案で編集方針、雑誌の体裁、編集(室) 業務の改革を協力して行いました。当時の経験より曾根先生の決断力、実行力には感服しています。

蔵本地区では、これまでに医学部(医学科、栄養学

科、保健学科) 附属病院、歯学部、薬学部、分子酵素学研究センター、ゲノム機能研究センターが互いに緊密な連携を保ちながらも、各部署が特色ある研究教育体制を築き上げて来ました。21 世紀 COE プログラムが医学研究科(松本俊夫拠点リーダー) 栄養学研究科(武田英二拠点リーダー) で合計 2 件採択され、医学部の先端的な生命医学研究、高度先進的医療開発に対応する拠点としての評価はゆるぎないものになりました。又、医学科は蔵本地区で最も歴史ある中核組織であり、医学教育、医療人養成に関しても重要な役割を果たしてきました。医学教育では、徳島大学医学部は早くからチュートリアルを導入し、さらに医療教育統合支援センターの設置等、新しい試みを次々に行ってきました。意欲ある学生、若手研究者の能力を伸ばせる環境作りこそ、これからの医学部の発展には重要となります。

医学部長のリーダーシップのもと、各学科間、部署間の調整を計り、学生教育の充実・効率化、アメニティーの改善、研究環境の整備、教育研究支援体制の拡充のために努力したいと思います。

医学科のみならず医学部全構成員の皆様の暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

*** 栄養学科長あいさつ ***

新しい栄養学科への道

栄養学科長 中屋 豊



10 月から、栄養学科長を務めさせていただくことになりました。私の任期中には、他の学部と同じように独立行政法人化への対応を早急に行わなければいけない以外に、栄養学科は大学院大学、21 世紀 COE の推進、

食と健康増進センター、食品の治験管理センター、栄養士の教育制度の変化と、大きな変遷を受ける時期になります。これらの制度の改革

は徳島大学医学部栄養学科にとって、大きな前進で、研究機関としての飛躍、あるいは教育機関として研究者、専門家の育成が期待されています。この時期に学科長として多くの仕事を片付けなければならないという重責につぶされそうな気持ちです。これらの問題をすべて解決していけるのだろうかとの不安で、スタートすることになりました。

まず、学科長としては大学院、および学部の教育に力を入れたいと思っています。学部教育では、臨床医学に重点をおいた教育改革が行われています。徳島大

学栄養学科が医学部内にあることを生かし、日本一の臨床栄養の教育施設にしたいと考えています。このためには栄養学科の各先生方および医学科の先生方、附属病院の各部門の方々にお世話にならないといけないと思いますが、よろしく願いいたします。また、関連病院あるいは関連施設も実習などで今まで以上に世話になると思いますので、よろしく願いいたします。

教育に関しては、栄養学科単独でなく、医学科、保健学科、歯学部、薬学部とも協力し、お互いの乗り入れ授業などを行い、効率化とレベルの高い教育を図りたいと考えています。徳島大学においていかにいい人材を育てるかが、これからの栄養士の将来を大きく左右すると思いますので、他学科と協力して早急にシステムの構築に取り掛かりたいと考えています。

研究に関しては、現在 21 世紀 COE が進行中で、これを中心に研究を充実させていきたいと考えています。

これとともに大学院大学となることより、大学院の教育、研究の充実を要求されることとなります。各教官、大学院生とともにこれらの目標の実現に目指してがんばっていく所存です。新しく改装された栄養学科研究棟では、講座の壁が取り外され、共同研究が行いやすくなっています。栄養学科内の教官を中心に、大型の共同のプロジェクト研究なども立ち上げるようにしたいと考えています。

その他、附属病院内でのセンターが立ち上がり、病棟の栄養管理、食品の開発、治験などを行うこととなります。新しい分野での仕事ですが、ぜひ成功させたいと考えています。

以上のようにあまりに大変な時期になり、やらねばならないことが非常に多く、戸惑っていますが、任期中に将来のためにしっかりとしたルールを敷くように努力してまいります。

*** 保健学科長あいさつ ***

保健学科の近況

保健学科長 前 澤 博



保健学科は平成 13 年 10 月に徳島大学医療技術短期大学部から改組、転換されてから 2 年、また昨年 4 月に第 1 期生を迎えてから 1 年半が経過しました。

第 1 期生と 2 期生を合わせ 249 名の学生が入学しました。今年 4 月からは、第 1 期生は蔵

本キャンパスで専門教育の学科共通科目と各専攻・専門科目を、また第 2 期生は常三島キャンパスでの全学共通教育科目と蔵本キャンパスで金曜日に開講される全学共通教育および学科共通科目の授業を受けています。学年進行に伴い、実習・実験など専門科目の授業数が増えますが、平成 16、17 年度の新教官の就任によって教育体制が整っていく予定です。

施設整備については、建物改修による保健学科棟の増設により講義室、実習室、更衣室などの整備を、また、時代にマッチした教育のため、講義や実習・実験用の新たな設備、機器の整備を予定しています。しかし、厳しい国家財政のため、建物改修は平成 16 年度の概算要求では認められず、学年進行に合わせた施設整備予定が遅れる可能性があります。施設や環境の整

備について我々自身の努力はもとよりですが、関係する方々の一層のご理解とご協力を得られるよう力を尽くさねばならないと考えています。

保健学科は、我が国の少子化、超高齢化社会への急速な進展と疾病構造の変化に伴い、時代に即した質の高い医療技術者の養成が求められる状況のもとで設置されました。平成 5 年度から始まった国立大学における保健学科等の設置は、今年 10 月までに、予定された 37 校すべて終了しました。予想される厳しい大学間競争に生き残るためにも、優れた教育内容と環境のもとで、有能な人材を育てることが我々に求められています。我々は、より高度の教育・研究を進めるため、平成 18 年度の大学院修士課程の設置を目指していますが、修士課程設置準備ワーキンググループにおいて課程内容の検討を始めています。医学部・歯学部・薬学部の統合大学院構想を視野に入れ、当学科の学部・大学院構想を進める必要があります。我々教官が研鑽を積むことはもとより、他学科の先生方および職員の方々のご協力とご支援をお願いする次第です。

就任のご挨拶



大学院医学研究科プロテオミクス医科学専攻
生態制御医学講座 教授 六反 一仁

徳島大学大学院医学研究科プロテオミクス医科学専攻生態制御医学講座ストレス制御医学分野の教授を拝命いたしました六反一仁です。ストレスの革新的評価法の確立とストレスバイオマーカーの同定に挑戦しています。分野を超えた共同研究を大切に、また、若い研究者の育成を最重要課題として真摯に研究に取り組み、21世紀 COE プログラムの成功に全力を注ぐ覚悟です。皆様の暖かいご指導・ご支援をお願いいたします。



医学・歯学・薬学部事務部長 平井 宏

10月1日付けで医学部事務部次長から医学・歯学・薬学部事務部長に就任いたしました。病院統合、大学院研究部・教育部の設置計画等一連の組織再編の中で蔵本地区3学部の事務部が一つの組織に統合されました。当面は各学部研究棟での分散事務になりますが、来年4月の大学法人の発足並びに医歯薬栄養学統合大学院の設置準備に向け、事務部職員全員が力を合わせ頑張りますのでよろしくお願いいたします。



医学・歯学・薬学部総務課長 石原 伴起

10月1日付けで人事課課長補佐から医学・歯学・薬学部総務課長に就任いたしました。総務課の各係は業務の所掌上それぞれ医学部、歯学部、薬学部に分かれて業務を行っておりますので、皆様のご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。また、本学においては平成16年4月の国立大学法人化に向け人事制度や会計制度の整備に追われているところですが、各学部においても統合大学院設置に向けて準備を進めているところであります。教職員の皆様のご協力をいただき職務を遂行いたしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



医学・歯学・薬学部学務課長 森 茂樹

10月1日付けで医学・歯学・薬学部学務課長に就任いたしました森 茂樹と申します。学務課は10月1日からの蔵本地区3学部の事務組織の一元化により、学務課長、主任専門職員、専門職員、第一教務係（医学部学生（保健学科を除く。）担当）、第二教務係（歯学部学生担当）、第三教務係（薬学部学生担当）で構成されており、各学部担当の教務係は、それぞれ各学部の事務室において執務しております。学生支援の充実を目指し、学務課全職員努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

蔵本地区の事務組織について

蔵本地区の事務組織は、本年10月の医学部附属病院と歯学部附属病院の統合並びに医学部、歯学部及び薬学部の事務組織の一元化に伴い、医学・歯学・薬学部事務局と医学部・歯学部附属病院事務局に再編されました（下図のとおり）。

医学部、歯学部及び薬学部の事務は医学・歯学・薬学部総務課と学務課が所掌しますが、3学部はそれぞれ別棟となっているため、各学部の利便性を考慮し、総務課、学務課ともに各学部の担当係を決めて、当該学部において業務を行っています。その概要は、第一総務係・第一教務係が医学部（保健学科を除く）、第二

総務係・第二教務係が歯学部、第三総務係・第三教務係が薬学部を担当となっています。

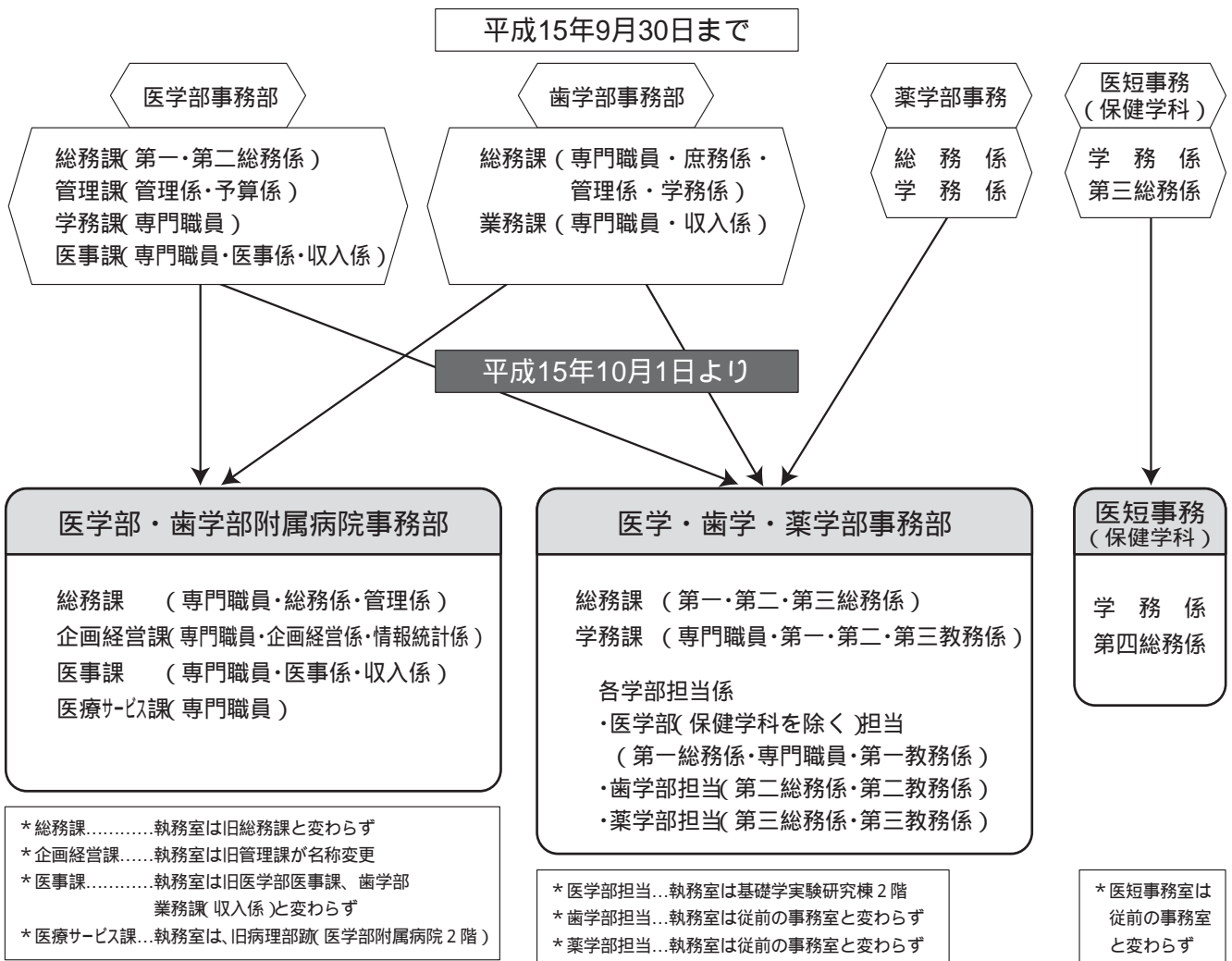
医学部・歯学部附属病院の事務は、その業務の内容によって同病院事務局の総務課、企画経営課、医事課及び医療サービス課が行っています。

なお、医学部保健学科と医療技術短期大学部の事務は、医学・歯学・薬学部総務課第四総務係と同短大学務係が行っています。

事務組織の再編は、病院統合その他大学をとりまく環境の変化等によるものであります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

病院統合に伴う事務図



医学部ニュース

臨床スキルラボの開設と臨床技能開発システム

情報伝達薬理学 玉置俊晃

日本の医療人教育の改善を求めて平成 11 年 2 月 26 日に「21 世紀医学医療懇談会・第 4 次報告」が、「21 世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方について」として提出された。多くの提言が盛り込まれているが、重要なポイントの 1 つとして医学教育における臨床実習の改善と充実が求められた。徳島大学医学部においても、「21 世紀医学医療懇談会・第 4 次報告」を受けて、平成 11 年 4 月よりカリキュラム小委員会を教務委員会内に設置して医学教育カリキュラムの改革を目指した。臨床実習の改革にも積極的に取り組んだ。学生教育を意識した病院づくり、関連病院などの協力による臨床実習体制の構築、学生が何時でも自由に臨床技能を学ぶためのスキルラボの設置などを目指した。医学部の教育改善に対する取り組みに、齋藤前学長が理解を示していただき、平成 13 年度の学長裁量経費で OSCE（客観的臨床能力試験）実施に向けて高度救命救急処置訓練装置の導入ができた。さらに、平

成 14 年度には、「臨床技能開発システム」構築のための補正予算がついた。この予算により、医学生や看護学生が臨床実習に入る前から、外傷治療、心肺蘇生、分娩介助などの様々な症状を各種シュミレーターにより再現し、基本的臨床技能を獲得するためのシステムを充実させた。

香川病院長の理解を得て、新設された中央診療棟 5 階に「臨床スキルラボ」を平成 15 年 10 月に設置した。学生・研修医・新人看護師などが、これらの各種シュミレーター教材やシュミレーターソフトを使用した自己学習により基本的臨床技能の獲得や向上に努めることが可能になる。「臨床スキルラボ」の開設と臨床技能開発システムの導入により、患者の人権を尊重した医療現場と臨床実習の充実の両立を図り、患者満足度を損なうことなく、優秀な医療人を養成することが可能になると期待される。



臨床スキルラボ（中央診療棟 5 階）

徳島大学医学部は、 施設内の全面禁煙を宣言します。

平成 15 年 5 月 1 日より、「健康増進法」が施行されました。この法律では、受動喫煙の防止（第 5 章第 2 節）として「受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない」と定められています。徳島大学医学部では、さる 10 月 1 日より、この「必要な措置」として「禁煙宣言：徳島大学医学部は、施設内の全面禁煙を宣言します。」をスローガンに、施設内の全面禁煙を実施しております。医学部の施設内（室内、廊下、渡り廊下、屋上など）では、教職員、学生、外来者を問わず、喫煙を禁止するとともに、医学部の施設内から、タバコの自動販売機、灰皿を撤去しました。教職員、学生には、今後とも禁煙のための

医学部長補佐(組織運営担当) 久保 真一

啓蒙・啓発活動を実施して参りますが、外来者の方々にもご理解・ご協力をお願いいたします。



21世紀 COE・医学系研究教育拠点

医学系 COE 推進室の設置と拠点形成の現況について

拠点リーダー 生体情報内科学 松本 俊夫

拠点形成を推進するため、下記の各項について事業を進めた。

1. 医学系 COE 推進室の設置と事務要員の配置

医学部長室隣りを改修し医学系 COE 推進室を設置すると共に、事務担当として 9 月から大亀貴美枝さんが第一総務係より着任した。また今後の臨床検体の保管管理担当も含めて新たに岡田治美さんを採用した。

2. COE 特別研究員・大学院研究員の採用

拠点内公募を行い選考の結果、3 名の特別研究員と 16 名の大学院研究員を 10 月より採用した。今回は公募期間が短かったが、今後は優れた人材を確保すべく早期より公募することとし、来年度の両研究員の拠点内公募を開始した。

3. COE 研究助成の募集

40 歳未満の若手研究者を対象に 1 件当たり 150 万円の研究助成を拠点内公募しており、peer review の上で年内に 6 件の採択を予定している。

4. COE プロテオミクス解析室の改修

旧外来放射線科 12 番の血管造影室跡を「COE プロテオミクス解析室」として使用するため改修を開始

した。最新鋭プロテオミクス機器と検体保存・管理の為に超低温フリーザー等の設置を予定しており、解析のための技術要員、検体管理要員を既に公募している。

5. プロテオミクスシンポジウムの開催

多数のプロテオミクス研究者を集めて 12 月 4 日に長井記念ホールで「ポストゲノム医学の幕開け～プロテオミクス研究はどう進展するか～」と題して徳島プロテオミクス医学シンポジウムを開催する予定である。大学院特別講義を兼ねており、昼休みには「エルボ」において立食でミキサー形式の昼食を予定しており、多数の研究者のご出席をお願いしたい。



21世紀COEプログラム

「ストレス制御をめざす栄養科学」の進捗状況

拠点リーダー 栄養学研究科 武田 英二

1. 栄養科学COE推進室が設置されました。
栄養学科棟に2階のコ・ラボ施設は整備を進めているため、5階に推進室(505)を仮設置しています。

・推進室 技術補佐員2名

TEL : 088 - 633 - 9124

FAX : 088 - 633 - 9133

E-mail : coe@nutr.med.tokushima-u.ac.jp

・COE研究員・リサーチアシスタント・技術補佐員が採用されました。

・教育環境および研究施設的环境整備を行っています。

2. 教育研究活動と社会貢献について

11月14日 宮尾益知先生講演会「小児の精神・心理疾患」青藍会館

11月21日 東京ダイヤモンドホテル「国際シンポジウム・COEフォーラム」

12月8日 長井記念ホール「COE国際ワークショップ」

を開催する運びとなっています。



医学部・歯学部附属病院のスタート / 大診療科制のめざすもの

副病院長(医科診療担当) 苛原 稔

10月1日付けで統合病院が発足しました。現在の厳しい医療環境と国家予算削減の中、大学病院組織の活性化・効率化を目的とした今回の病院統合には、多くの利点とともに様々な問題点があると思われませんが、英知を絞って粘り強く問題点を解決しながら、合併による利点を伸ばし、活力ある大学病院にする必要があります。

病院組織の活性化・効率化を図るには、明確な方針を呈示し、それを迅速に実行し、結果に対して明確に責任を負うシステムが必須です。今回の統合では、病院長の専任化および10大診療科体制が発足し、トップダウン型の指令系統が整えられました。この指令系統の充実度が統合病院の成否を握っていると言えます。そのためには、トップに立つ専任の病院長には卓越した指導力が要求されますが、この難局に病院長に就任された香川先生はまたとない適材であろうかと思えます。もちろん、10大診療科体制を有効に動かすためには、逆方向のボトムアップ型の情報収集機構を併せて整備する必要があります。

歯学部との融合も重要な課題です。医学部と歯学部にはそれぞれ長い歴史と伝統があり、取り巻く環境も異なります。統合にあたってはデリケートな問題もありますが、何時までも過去のしがらみに生きることではできない時代であることは、多分共通の認識ではないでしょうか。お互いに統合病院の発展に何ができるか

を考えなければならないと思います。

さて、これからの統合大学病院の使命についてですが、高度医療の積極的な展開、地域医療へのきめ細やかな貢献、そして明確なコスト意識の導入であろうかと思えます。これらはある意味で相反する命題ですが、これを達成しなければ大学病院の将来はないと思えます。すでに、経営戦略担当の副病院長に公認会計士の武田裕忠氏の就任を得て、コストに対する意識改革は始まっています。その中で、大学病院で求められる高度医療と地域医療への貢献を追求して行きたいと思えます。

もちろん、このような改革は母体の医学部の全面的な支援がなければ達成できません。常に密接に連携しながら進めて行く必要があります。よろしくご支援賜りますようお願いいたします。



先端医研はいろいろな形でご利用できます

先端医療研究資源・技術支援センター長 佐々木 卓也

総合研究室が4月にリニューアルして先端医療研究資源・技術支援センター（先端医研）となってから早6ヶ月が経過しました。その間、医学研究科と栄養学研究科が共にCOEの審査にパスし、また、医学研究科に修士課程が開設されてバイオサイエンス研究を目指す若い人達が集まり、医学部全体の研究気運が高まっているように感じます。そのような状況下で、私たち先端医研は、センターの機器の管理や使用にあたっての指導や助言だけでなく、形態系の解析やDNAシーケンシング等の受託を行うなど、皆様の研究にさらに

お役に立てるよう、がんばっていきたいと考えております。また、医学研究科のCOEの要であるプロテオミクス解析や臨床検体の管理にも携わっていく予定です。さらに、多様化した実験技術を紹介する先端医研テクニカルセミナーを開き、学生さんの種々の実験技術についての基礎学習や、先生方の新たな実験技術の導入にもお役に立てればと思っております。今後ともどうぞ先端医研をどんどんご利用くださいませ。

医学部教育研究振興基金を設立

医学部長 曾根 三郎

徳島大学医学部医学科は、現在までに約4,500名の卒業生を輩出し、医療、医学の第一線において指導的な立場で活躍されております。医学科は、同窓会「青藍会」の多くの先生方から暖かいご支援並びにご協力を頂き、優秀な医師の育成にとどまらず、研究面においても基礎から臨床における幅広い分野で日本をリードする研究を展開しております。

この度、青藍会会員のご逝去に際しご遺族の方から、「何らかの形でお返ししたい」との物故会員のご遺志

をもとに医学の教育、研究に役立てて頂きたいとの趣旨にて、1,000万円のご寄付を頂きました。本学部にはこのような貴重な寄付金をお受けし、教育、研究助成のために役立てて行くための組織がなかったことから、これを機に徳島大学医学部教育研究振興基金を設けさせて頂きました。この度の物故会員並びにご遺族の御厚志に重ねて深く感謝申し上げます。

科学研究費補助金申請ノウハウ講習会

科学研究費補助金申請ノウハウ講習会が、平成15年10月7日に臨床第二講堂で開催されました。独立法人化後は外部資金の導入がますます重要になってくるため、医学部教授会は全教官に科学研究費補助金の申請を義務づけることを決定しました。今回の講習会では曾根三郎医学部長の司会のもと、まず日本学術振興会参与である東京医科歯科大学の宮坂信之教授に科学研究費補助金の申請と審査の制度について講演していただきました。引き続き、蛭名洋介教授には「質の高い申請書の書き方」、松本俊夫教授には「審査側から見た良い申請書、悪い申請書」と題した講演をしていただきました。いずれの講演も具体的な内容で、質疑応答も活発に行われ、来年度の科学研究費補助金の採択率の向上が期待される講演会でした。



人権問題研修セミナー開催される

人権委員会委員 佐野 壽 昭

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントが社会的に大きく取り上げられている折、医学部における人権意識の向上をはかる活動の一環として、医学部主催の人権問題研修セミナーが9月11日、新装なったばかりの臨床第二講堂で開催された。講師は角田由紀子氏（静岡県弁護士会所属）で、「人権が尊重される大学とは」をタイトルに、大学におけるハラス

メント事件に弁護士として長年取り組んできた経験のもとに、性差別の歴史的背景や性差別発生 of 構造的課題、予防することの重要性について、約1時間講演された。事件が起きてしまえばどのような悲惨な事態になるか深く認識する機会となった。人権問題への地道な、継続的な活動が必要と感じた。

森澤事務局長を迎えて

9月12日の医学部教授会に大学本部から森澤事務局長を迎えて、平成16年度からの国立大学法人化を控えて、学長を中心とした組織における予算・管理・運営の変更点と今後の改革の方向について説明があり、相互に関心の高い事項について情報並びに意見交換が積極的に行われた。教官の流動化、教育、研究活動の推

進は組織活性化に必須であり、今後とも継続した情報並びに意見交換の重要性が確認された。



森澤局長 法人化に向けて説明

平成15年度白菊会会員と学生との懇談会、 第50回徳島大学解剖体慰霊祭

機能解剖学教授 福井 義 浩

平成15年度白菊会会員と学生（医学科、歯学部）との懇談会が、平成15年10月22日午後1時から第二学生実習室で行われました。この懇談会は毎年解剖体慰霊祭の前に行っています。大塚副理事長の挨拶のあと、会員と医・歯学部学生が各テーブルに分かれて懇談を行い、さらに解剖実習についての感想を6名の学生が発表しました。私の知る限りこのような懇談会を行っているのは全国的にも徳島大学だけです。白菊会会員の評判は非常によく、今後もぜひ引き続いて行ってほしいとの意見が大多数を占めています。学生も白菊会会員の方々の篤志に感動し医学部入学時の初心に立ち返ることができたので、一層勉学に精進しようとする気持ちになったと述べています。

午後3時から、全員が大塚講堂に移動し、第50回徳島大学解剖体慰霊祭（祭主 曾根三郎医学部長）に参列し献花を行いました。ご遺族、白菊会会員、学生と比較して、例年教職員の参列が少ないように思い

ますので、来年からはぜひ多数の教職員に参列していただけますよう紙面をお借りしてお願い申し上げます。



各賞受賞

第1回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)

日本心臓財団が循環器領域の少壮研究者を対象に実施している事業の一つで、本奨励金は30歳未満の将来性のある若手研究者に1件100万円で2件採択されるものです。今回、本学から次のとおり採択されました。

所属：医学研究科 M.D.-Ph.D コース1年次(病態情報医学講座情報伝達薬理学分野) 井澤有紀
研究課題：糖尿病性微小血管障害におけるBMK1の生理的意義の解明と、新しい治療法の開発

若手共同研究推進助成金

医学部の基礎系及び臨床系にまたがる研究で、助手、講師、助教授の若手研究者のプロジェクト研究への助成を行うものです。本年度は次の2名に授与されました。

情報伝達薬理学

吉栖正典 講師

栄養生理学

二川 健 助手



若葉会奨学賞

医療法人若葉会の寄贈の趣旨に沿い、徳島大学医学部並びに徳島大学大学院医学研究科及び徳島大学大学院栄養学研究科に在学する私費外国人留学生(専攻生及び研究生を含む。)の奨学に資することを目的に授与されるものです。本年度は次の2名に授与されました。

医学研究科プロテオミクス医科学専攻2年 藤 錫 川
栄養学研究科博士後期2年 ヤンジマ ビラ



外国人留学生学術奨励賞

医学研究科並びに栄養学研究科において2年間以上研究に従事し、著名な国際誌に筆頭著者として論文を発表した外国人留学生に授与されるものです。

本年度は、情報伝達薬理学講座 博士課程 4年 MOE KYAW さんに授与されました。



報 告

第55回西日本医科学生総合体育大会

(7月26日～8月13日)

【団体】

弓道(男子) 優勝

バドミントン(男子) 準優勝

ソフトテニス(女子) 第4位



【個人戦】

バドミントンダブルス部門 1位 中島・笠井組

陸上 男子200m 2位 森本 雅俊

水泳 男子50m自由形 1位 大西 皓貴

男子100m自由形 4位 大西 皓貴

男子400m個人メドレー 1位 鈴江 真史

男子200m平泳ぎ 4位 鈴江 真史

女子50m背泳ぎ 3位 三崎万里子

女子100m背泳ぎ 5位 三崎万里子

お知らせ

徳島大学医学部・大学院 医学研究科 ホームページが
栄養学研究科
リニューアルされました。

<http://www.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/university/>

発行者 医学部長 曾根三郎

編集委員長 広報委員長 武田憲昭

編集委員 広報委員

泉 啓介、足立昭夫、水口和生、太田房雄、原田雅史、平井 宏、森口博基

総務課 眞崎良一、津川咲子

医学部だよりへのご意見・ご要望は、こちらへお願いします。

Tel:088-633-9117 Fax:088-633-9431 E-mail:isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp